

ラガーディア・コミュニティ・カレッジ

ラガーディア・コミュニティ・

カレッジは、1971年にクイーンズ区ロングアイランドシティに設立され、ニューヨーク市立大学 (city University of New York/CUNY) を構成する7つのコミュニティカレッジの一つです。ラガーディアには8つの学術部門があり、50を超える準学士号およびサーティフィケート（証明書）プログラムを提供しています。主な専攻分野には、健康科学、STEM（科学・技術・工学・数学）、ビジネス&テクノロジー、リベラルアーツ（一般教養）があります。ラガーディアは、25校からなるCUNYシステムの中で、STEM分野の卒業生数が第3位を誇ります。卒業後、学生の多くはCUNY内の4年制大学などの「シニアカレッジ」に編入し、学士号の取得を目指します。看護学、ニュー・メディア・テクノロジー、獣医テクノロジーなどのキャリアプログラムの卒業生は、就職して社会に出ていきます。

2019年には、ラガーディアは、大学進学準備課程、準学士課程、継続教育プログラムを合わせて3万人を超える学生を受け入れました。クイーンズ区の多様性を反映し、ラガーディアの学生の56%は米国外の出身です。学生は世界の国々の81%にあたる158カ国から来ており、そのうち54%以上が大学進学第一世代の学生です。69%がクイーンズ区在住で、残りはブルックリン区など他地域から通学しています。約半数（48%）は親元を離れて独立して生活しています。ラガーディアの学生のほぼすべて（88%）がエスニック・

マイノリティに属し、58%が女性、31%が25歳以上です。ラガーディアの学生の48%はヒスパニック系であり、米国教育省がヒスパニック系学生支援機関 (Hispanic-Serving Institution, HSI) の指定要件として定める25%を大きく上回っています。ラガーディアの学生の66%が何らかの形で経済的援助を受けており、そのうち援助を受けながら親元を離れて暮らす学生の7割以上が、年間所得2万5,000ドル未満です。ラガーディアの学生のおよそ半数弱（46%）はパートタイム（半日制）で在学しており、多くは家族を支えるために働く必要があるからです。授業料は1学期あたり2,400ドルに諸費用が加算されます。

ラガーディアに在籍する初年度・

フルタイムの新入生の卒業率は、2012年の20%から2017年には32%へと着実に上昇し、全米平均の22%を大きく上回っています。在籍継続率も概ね安定した水準を保っています。スタンフォード大学（2017年）およびブルッキングス研究所（2020年）による調査では、ラガーディアは、低所得層の学生を中流階級以上へと押し上げる「経済的流動性」の指標で、全米のコミュニティカレッジの中で第5位にランクされています。ラガーディアはまた、クイーンズ区の住民がニューヨーク市経済の中で需要の高いヘルスケア、IT、建設などの分野でキャリアを築けるよう支援する「ワークフォース・

ディベロップメント（職業人材育成）」プログラムでも知られています。産業界のパートナーと連携しながら、ラガーディアの成人・継続教育部門 (Adult and Continuing Education, ACE) は、実践的な職業訓練、職場で不可欠な「ライフスキル」、就職あっせん、学生サポートを提供しています。トレーニングを修了した学生は、業界で認知された資格を取得でき、一部のプログラムではラガーディアの学位取得に適用可能な単位も得られます。ACEのスマールビジネス&アントレプレナー・サービス (Small Business & Entrepreneur Services) プログラムには、コミュニティカレッジとして初めて設置された「Goldman Sachs 10,000 Small Businesses」プログラムが含まれており、数千に及ぶ中小企業に対して教育と専門的な技術支援を提供するとともに、雇用主と協働して人材パイプラインを構築し、在職者のスキル向上を促し、地域経済の活性化に貢献しています。

ニューヨーク市在住の日本語話者の方へ：コミュニティカレッジに通うメリット

アメリカの「コミュニティカレッジ」は、日本でいう短期大学と専門学校の中間のような存在で、公立の2年制大学です。授業料が4年制大学よりも安く、入学要件も比較的柔軟なため、「まずは英語力を伸ばしたい」「アメリカの大学の授業についていけるか不安」「仕事や子育てと両立したい」という方にとって、現実的で始めやすい選択肢になります。

ニューヨーク市にはクイーンズ、マンハッタン、ブルックリンなどに日本人・

日本語話者が多く暮らしており、仕事の駐在で来ている方、永住を目指す方、日本の大学は出ているけれどアメリカでの資格や学位が欲しい方など、状況はさまざまです。コミュニティカレッジでは、英語学習者向けのESL（英語集中講座）や、働きながら通える夜間・

週末クラス、パートタイム履修が整っており、「今すぐフルタイムの学生になるのは難しい」という方でも、自分のペースで学び始めることができます。

また、多くのコミュニティカレッジは、CUNYやSUNYなどの4年制大学への編入制度（2+2モデル）が整っており、まずコミュニティカレッジで基礎科目と準学士号を取得し、その後4年制大学に移って学士号まで到達するルートが一般的です。最初の2年間を安い授業料で学べるため、家計への負担を抑えつつ、アメリカの大学教育と職業スキルの両方を身につけることができます。

ニューヨークのコミュニティカレッジには、移民第一世代や留学生、社会人学生が多く在籍しており、「英語が母語ではない」「アメリカでの学びは初めて」という人を支えるサポート体制が発達しています。キャリアセンターによる就職支援、履歴書の書き方指導、インターンシップ紹介などもあり、ニューヨークでの就職・

転職を視野に入れている日本語話者の方にとって、アメリカでのキャリアの土台を築く場として大きなメリットがあります。